

「人工知能，IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進」特集号発刊にあたって

松田 憲幸

(和歌山大学システム工学部，学会誌編集委員会筆頭幹事)

1. はじめに

人工知能やIoTによる新しい技術が，社会のさまざまな領域で革新をもたらしている。人工知能技術は，人の膨大な学習記録から機械的に特徴を抽出することで，これまでの常識を超える知見を見いだしている。また，人の行動・活動文脈の中で活用可能なセンサーデバイスがネットワークにつながることにより，これまで実現できなかった新しいサービスが生まれている。こうしたインパクトは，教育システム情報学の領域においても，これまでにない発想や，アプローチによる新しい学び方や，新しい教え方，新しい教育の管理をもたらしつつある。

2019年6月，新しい教育システム情報学の知識構築を目指し，特集号「人工知能，IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進」に関する研究論文を募集した。

2. 論文の投稿数と判定結果

投稿は，13編で，その内訳は，一般論文が3編，実践論文が5編，ショートノートが2編，実践速報が3編であった（1編は著者による取り下げとなった）。

審査は，一般の投稿論文と同様の基準のもと，厳正に行われた。論文種別は4種類で，「一般論文」は研究，開発，検討の結果をまとめたものであり，新規性，信頼性が高いもの，また，「実践論文」は情報システム・機器を利用した教育実践の結果をまとめたもので，その仕組みや条件が明確に記述され，汎用性の高い知見や方法が客観的な形式で導出されており，有用性・信頼性が高いものである。「ショートノート」は，

研究の動機，方法，結果などの技術的な点が明確に記述されており，新規性，信頼性があるもの，「実践速報」は情報システム・機器を利用した教育実践の結果をまとめたもので，その仕組みや条件が明確に記述されており，有用性，信頼性があるものである。なお，ショートノート，および，実践速報は，著者紹介が掲載不要で6ページ以内のページ制限がある。投稿の詳細は，学会ホームページの「学会誌」の「執筆要領」にある

「学会執筆要領」

<https://www.jsise.org/journal/guideline.html>

に公開している。

審査の結果，採録は8編で，その内訳は，一般論文が2編，実践論文が1編，ショートノートが2編，実践速報3編で，採録率は62%であった。また，採録された論文は，すべて，本特集号のテーマに含まれると判断された。

3. 特集論文研究会

特集号のテーマと連動した「特集論文研究会」が2019年3月16日に武蔵野大学有明キャンパスにおいて開催された。本研究会での発表が，特集号への論文投稿への参考となることを主旨とし，研究会発表者の希望により，発表時間を延長し，また，学会誌編集委員会と研究会委員会の委員が，発表前にあらかじめ原稿を閲読して，発表者へコメントを提供した。

16件の発表があり，そのうち，閲読の希望は10件であった。会場では，非常に活発な議論が行われ，後日，閲読コメントが発表者へフィードバックされた。